

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073600308		
法人名	社会福祉法人 豊資会		
事業所名	グループホーム 花梨		
所在地	〒811-3111 福岡県古賀市花見南2丁目14-15 TEL 092-940-7203		
自己評価作成日	平成23年6月20日	評価結果確定日	平成23年08月02日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	平成 23年07月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ひとり一人の思いを大切に尊厳ある生活の継続を支える」の理念の下、実践の指針としてスタッフ全員で介護10ヶ条を定めている。職員各自が取り組む課題を決め、取り組んでいる。入居者の人権や尊厳については毎月のケアカンファレンスにおいて守られているかどうかを話し合っている。認知症であっても人生の先輩であること、感情は最後まで残ることを理解した支援を行なっている。おひとりお一人の生活のリズムを大切にしており、介護予防の観点からは、本人の力を活かす支援を心がけ、過剰な介護にならない様に注意している。最近は公文学習療法にも取り組み、認知症の進行防止のみならず、職員と入居者のコミュニケーションのツールとしても活用している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体医療法人と国道を挟んだ閑静な住宅街の中に、デイサービスと併設のグループホーム 花梨がある。医療、介護の専門性の高い職員を揃え「迅速、性格、気配り」を理念の柱として、職員は、利用者一人ひとりに同じ目線で話しかけ、個性を大切に、利用者や家族から花梨で暮らさせて良かった、と思われるような支援を実践している。特に、利用者の身体機能の維持、向上を目指し、一人ひとりの残存能力を引き出し、自立支援に向けた取組は、本人はもちろん、家族も感動し、生きる喜びに繋げている。また、職員が認知症サポーターとして、講演したり、相談を受けたりして、活動の輪が広がり、開設9年を迎え、地域密着型グループホームとして、地域に根付いた活動が始まっている「花梨」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を実践する手段として介護10ヶ条を作り、月に2ヶ条ずつ、各自で目標を決めて取り組んでいる。又業務の引継ぎ時には、理念と介護10ヶ条を唱和し、常に意識して実践に努めている。	「一人ひとりの尊厳を大切に、自分らしい生活が継続できるように支える」というホームの理念を基に、職員で意見を出し合い、介護10ヶ条を作り、毎月2ヶ条ずつ目標として掲げ、実践し、職員の介護技術の向上と、質の高い介護サービスを目指している。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者と職員は出勤や退勤時に近所の方々に積極的に挨拶を実施しており、地域の方とも顔見知りになっている。散歩の時には声をかけてくださり、交流できている。	利用者の高齢化、重度化で、積極的に地域に出掛けることが年々困難になっている中で、自治会に加入し、職員が地域の行事や公民館活動に参加し、地域の中で頼れるグループホームとして、信頼関係が築かれている。また、散歩時などには近所の方々と日常的な会話が弾んでいる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターとして、講習会で認知症についての講師をすることもある。又運営推進会議において認知症についての理解を深めていただけるように質疑応答を行なっている。	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況報告は毎回実施しており、サービス、評価への取り組み状況の報告も適宜実施し、意見を運営に活かしている。	会議は2ヶ月毎に開催し、家族、地域代表、行政職員がメンバーとなり、ホーム側からは、現況、今後の予定、課題の取り組み等を報告し、参加者からは、意見、質問、要望等が出され、充実した会議になっている。また、出された意見は、出来るだけ運営に活かせるよう取り組んでいる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月利用状況報告を市町村の窓口を持参しており、運営推進会議では実情報告やケアサービスの取り組みを報告し、協力関係を築くように努力している。	行政の窓口には、毎月のホームの状況を報告し、アドバイスをもらうなど、連携が図られている。今後は介護相談窓口として、行政と協働出来る取り組みを目指していく。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について全職員が正しく理解するように勉強会を実施している。又ケアカンファレンスにおいて具体的な行為を検討することで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止マニュアルを用意し、職員研修で検討を重ね、身体拘束が利用者にもたらす弊害を全員が理解し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法を含む研修を実施している。又、業務ミーティングやケアカンファレンスにおいても話題に取り上げ、拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を実施しており、必要性においては介護支援専門員を中心に支援を検討している。	権利擁護に関する制度のパンフレットを整備し、職員研修を実施し、理解して、必要性を求めてきた利用者や家族に説明し、申し込みの手続き方法等、橋渡しできる体制である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や、解約、改定時は、十分な時間を確保し説明を行ない、不安や疑問が無いかなを確認することで、理解・納得を図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様全てに運営推進会議への参加を促し、可能な限り委員として会議に参加いただき、意見を表せる機会としている。又、意見があれば運営に反映するように図っている。	職員は家族の面会時や電話等で、家族の要望を聴いている。また、運営推進会議に、多くの家族に参加してもらい、意見、要望を表出する機会を作り、出てきた意見は検討し、ホーム運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務ミーティング時に職員の意見・要望を提案する機会があり、運営に反映している。	毎月の職員会議で活発に意見を出し合い、また、管理者による職員一人ひとりへの聴き取り等で、職員の意見、要望を理解し、出された意見がホーム運営に反映出来るように努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力開発カードを用いており、努力や実績に応じて等級アップにつながる仕組みであり、やりがいを持って職務に当たれる環境となっている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用時は制限は設けておらず、働く職員が生き生きと楽しく自己の能力を発揮できる環境作りを心がけている。又社会参加や自己実現の機会が得られるように配慮している。	職員の採用は、性別、年齢の制限はなく、人柄や、働く意欲のある人を重視している。また、研修や資格取得のために、ホームとしてバックアップ体制を取っている。休憩時間を確保し、リフレッシュしながら職員が生き生きと働ける職場環境を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の尊厳を尊重することを理念に掲げており、ケアカンファレンスや施設内外の研修で教育、啓発活動に取り組んでいる。	利用者の尊厳を理念に掲げ、毎日唱和し人権に対する意識を高め、日々、利用者の人権尊重に努め、利用者や家族が、安心して過ごせるための支援が出来ている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ひとり一人の現状把握について能力開発カードを活用している。 自己啓発目標を設定、個人の目標に従って研修や自己学習でスキルアップを図るよう奨励している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会に加入しており、各種勉強会や研修に参加している。又市のグループホームのネットワークもあり、勉強会を持ち回りで実施するなど交流の機会がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で本人が困っていること、不安なこと、要望等を時間をかけて聞くように努め、信頼関係を構築できるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談で家族の困っていることや要望等を時間をかけて聴く事で、信頼関係を築けるように心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望や見学時に、本人や家族の希望を踏まえ、必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応をしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	園芸を得意とされる方に職員が花や野菜の育て方を教えていただいたり、料理が得意な方に若い職員が手ほどきを受けたりしており、共に過ごし支えあう関係が出来ている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も参加できる行事を企画したり、いつでも面会できるように配慮することで本人と家族の絆を大切に、共に支えていく関係を築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人がいつでも訪ねて来れる様に配慮している。又散歩時に一緒に知人宅を訪ねるなど関係の継続を支援している。	職員は、利用者の友人、知人が訪問された時には、居室でゆっくりと話せる環境を提供し、また来て頂けるように工夫している。また、利用者が行きたい所、したい事、食べたい物等を聴き、家族の協力を得ながら支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の悪い方もおられるが、スタッフが間に入ることで孤立せずに利用者同士が穏やかに関わり合えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方へも必要に応じて連絡をとり、その後の様子を伺うなど心がけている。又同法人の他事業所を利用されている方については、報告を受ける機会がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時に本人の思いや意向を確認するようにしている。困難な場合は以前の暮らしぶり、生活歴等から本人本位に考慮している。	職員は、利用者の、思いや意向を穏やかに、時間をかけて聴き取っている。意向の表出が困難な利用者に対しては、アセスメントや、生活歴を丁寧に見直し、家族と相談しながら、出来るだけ利用者の思いに近づき努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や環境、サービス利用の経過等を把握するようにしている。又センター方式を使用し、結果を記録に残すようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のシートを使用し、定期的に現状把握を行なっている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者等と担当者会議を開き、それぞれの意見を反映した現状に即した介護計画を作成している。	利用者、家族の意見を大切に、毎月の担当者会議で、職員、主治医、看護師など関係者がそれぞれの意見を出し合い、介護計画を作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、その都度見直しを図っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「ふれあい記録」に日々の様子やケアの実践・結果、気づきを記入し、情報を共有し、介護計画の評価時に活用している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、ニーズに柔軟に対応するように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源について十分に把握するように努めており、本人が持てる能力を十分に発揮し、豊かな暮らしができるように支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を重んじ、適切な医療が受けられるよう支援している。また24時間365日の医療連携体制を確立し、利用者の健康管理に十分配慮している。	利用者や家族の希望を優先に、かかりつけ医の受診を支援している。母体が医療法人で、道路を隔てて正面に位置し、訪問看護も含めて、24時間医療連携体制が確立している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報や気づきは業務日誌や触れ合い記録に残すことで、訪問看護師に伝えており、適切な受診や看護を受けて頂いている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係との関係作りに努めており、入院時の情報交換を地域医療連携室を通じて行なっている。利用者が安心して治療できるように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を早い段階で聞き取るように努めており、事業所で出来ることについても説明を十分に行なうようにしている。又関係者と共に支援している。	医療連携、看取り介護の実施加算を取り、看取りの指針を明記している。利用者の重度化や終末期に向けて、利用者、家族と常に話し合い、主治医の意見を聴き、関係者全員で方針を共有し、看取りに向けて取り組んでいる。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が実践力を身につけるように、定期的に訓練を受けている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した非難訓練を定期的実施している。又近隣の方々にも協力を仰いでいる。	地域住民の協力、参加を得て、昼夜を想定した避難訓練を実施している。また、初期消火の手順や、スプリンクラーの設置等、火災予防に力を入れ、夜間の協力、連絡体制も確立している。非常食、飲料水などの備蓄も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「尊厳ある生活を支える」の理念のもとに人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮したケアの実践を心がけている。	職員は利用者を人生の先輩として尊敬し、理念に基づいた利用者のプライバシーの尊重と、さりげない見守りで支援している。また、個人記録は目の届かない場所で保管されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重するように心がけており、思いや希望を表すことを促す声掛けを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思を表出できる環境を作っている。ひとり一人が自分の意思で決定できるような声掛けを行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みを尊重した装いが出来るように気をつけている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	パンがお好きな方はいつでもパンが食べられる等好みで選んで頂いている。又利用者の力に応じて準備や片づけを一緒に行っている。	法人本部から、栄養士の献立による料理を配食し、利用者の残存能力に応じて、配膳、下膳を利用者と職員が一緒に行っている。また、時々利用者と職員でおやつ作りに取り組むなど、家庭的で、作って食べる事の喜びを味わう機会を取り入れている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録に残し、把握するようにしている。又利用者のその時々状態に応じた支援を実施している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態の悪い方には、起床時と毎食後口腔ケアを行ない、状態の改善を図っている。又他の方も毎食後自立の方には声掛けを、支援が必要な方には状態に応じたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の力や排泄パターンを理解するようにしており、トイレでの排泄が出来るだけ継続できるように支援している。	職員は、利用者一人ひとりの性格や排泄のパターンを把握し、利用者の状態により水分摂取や体操等で、自立に向けた排泄の支援を実施している。実際に、紙パンツから布パンツに変わられた利用者があるなど、成果も出ている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の中に野菜を豊富に取れるようにしている。又便秘時には牛乳を多めに勧めたり、運動への働きかけも行なっている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	衣服を脱がれる等の行為があったり、入りたいとの希望がある時は希望に沿うように支援している。	入浴は基本的には週2、3回であるが、利用者の希望によって、毎日でも入浴ができる。また、入浴拒否の利用者には、気分転換したり、他の職員が声かけしたり、次回に延ばすなどして支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人のその日その時の生活のペースで休息したり、落ち着いた雰囲気の中で安心して睡眠がとれるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用されている薬についての勉強会を実施し、理解をするように努めている。又、症状の変化について早く気付くように努め、提携している看護師や医師に伝えるように支援を行なっている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花や野菜作りの趣味のある方は、畑やベランダで栽培をされている。また、習字が得意な方は、短冊に書いたり、行事等で書き物の役割を担っていただいている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があればいつでも出かけるように努めている。又普段出かけられないような場所についても希望を把握するようにしている。	日常的な、散歩、買い物、畑仕事、ドライブ等、積極的に支援している。また、利用者の行きたいところ、したいこと等を聴き、家族と相談して、出来るだけ実現出来るように努力している。月に1度の外食も利用者の大きな楽しみである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方は、お金を持たれている。又希望があれば買い物と一緒に出かけたりもしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	好きな時に家族に電話をかけたたり、孫に手紙を書いたりされるのを支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭の雰囲気作りを心がけている。柔らかな自然の光の中、静かな音楽を流している。1月は鏡餅、3月は雛壇飾り、7月は七夕飾り、12月はクリスマスツリーを飾っており、又毎月季節の花を生けるようにして季節感を感じていただいている。	玄関や廊下、食堂には、利用者の貼り絵、習字の作品や季節の花等を飾り、家庭的な雰囲気作りを心がけている。広いベランダには利用者が丹精込めて作っているトマト、茄子、胡瓜が生り収穫を楽しんでいる。また、室内の明るさや音は、利用者が穏やかに暮らせるよう配慮されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下のあちこちにソファを配置し、思い思いに過ごせる場所があり、それぞれにお気に入りの場所ができています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の使い慣れた家具や本人の好みの物に囲まれて居心地良く生活できるように配慮しており、使い慣れたテーブルや仏壇を持ち込まれている方もある。	居室は利用者と家族の希望を尊重し、出来るだけ利用者の自宅で暮らす状態に近づけるため、馴染みの物を持ち込み、利用者が、安心して寛げる居室になっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ表示をなじみの言葉や大きな文字で表示したり、居室の名札もそれぞれに工夫し、安全に自立した生活ができるようにしている。		